

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票					No.	14-002	
PDCA	事務事業名	ごみ処理事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター 管理担当	担当	片岡	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち					
		節： 第2節 環境との共生					
		基本施策： 2. 廃棄物対策					
		単位施策： (2) 廃棄物の処理					
		個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
	対象・目的	燃やせるごみは焼却、燃やせないごみは破碎選別等、ごみを適切に処理することで清潔で快適なまちづくりを実現する。					
	目的を達成するための手段・活動内容	焼却施設及び破碎施設の運転維持管理等を業者に委託し、クリーンセンターへ搬入されたごみを適正に処理する。また、環境分析測定、電気保安管理や施設設備及び場内車輛の点検・修繕等を適切に実施する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①焼却施設で処理したごみ量		34,705	34,508	34,545	トン
		②					
		③					
		事業費		471,768	474,933	470,827	千円
		人件費		14,499	13,540	12,211	千円
		総事業費		486,267	488,473	483,038	千円
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位
	①市民1人当たりのごみ処理事業費		4	4	4	千円	
	②						
	③						
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
		①年度末時点での未処理ごみ量	実績値	430			t以下
			目標値	300			
		②年度末時点でのピット外仮置きごみ量	実績値		0	600	t
目標値				0	0		
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ない	※対象・手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある	
	事業の評価・課題	B					
		ごみ処理施設業務委託業者と連携し、施設の適切な維持管理に努めることができた。ごみ処理においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出自粛に伴うごみの増加や、令和3年度からの家庭系ごみ有料化開始に伴う駆け込み排出でごみ量が急増したことにより、ピットが満杯になり、最終処分場への仮置きが生じた。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	現状維持				
			知多南部広域環境組合による新施設が稼働する令和4年4月までの間、現施設において、ごみ処理を安定かつ適正に処理していく必要がある。今後も、機器等の日常点検や定期補修を始め、環境分析測定や電気保安管理などの各種維持管理業務を継続する。				
		令和3年度の目標	成果指標		目標値	単位	
			ごみ処理に係る事業を適切に実施できている				